

ステークホルダーダイアログ

ステークホルダーの皆さまのご意見をCSR経営に活かしています

電力アドバイザー制度

お客さまのご意見を事業活動に反映させるため、公募による「電力アドバイザー制度」(任期2年)を設けています。電力アドバイザーの皆さまには懇談会や施設見学会に参加いただき、ご意見をお伺いしています。

2010年度の取組み

- ◆委嘱人員……………191人
- ◆懇談会・見学会の実施…… 16回
- ◆主な見学先……志賀原子力発電所、七尾大田火力発電所など
- ◆アンケートの実施やインターネットを使った掲示板システムの活用



懇談会

VOICE ステークホルダーの声

電力アドバイザーとなって



電力アドバイザー応募のきっかけは、45年ぶりに故郷金沢に戻り、現役時代の原子力発電所建設工事に従事した経験から、北陸電力の安全・安定運転および地域環境に対してどのように取り組んでいるのか関心があったからです。

定例会議や志賀原子力発電所見学会等に参加することで、常に新たな発見があり北陸電力の情報等に関心が高くなりました。様々な体験や学習したことに感謝し、多くの人々に、その経験値を伝えていきたいと思います。

今回の東日本大震災の発生による福島第一原子力発電所事故を踏まえて、グローバルな視点から、技術の向上がますます進むだろうと考えられます。志賀原子力発電所の設備面等においても、最新の技術を取り入れながら、安全対策を講じ「見える化」を実践していただきたいと思います。さらに、再生可能エネルギー導入拡大を明確にし、地域の皆さまへ、電力の安定供給に対する信頼性向上に努めていただきたいと願っています。子供のころから「北電さん」として親しみがあり、ますます愛され尊敬され末永く成長・進化する存在であることを切望します。

電力アドバイザー(石川県金沢市)／渡辺 修身さま

福井県立大学の学生の皆さんとの対話活動

福井県立大学経済学部の学生の皆さんと、CSRと環境に対する取組みについて「北陸電力グループCSRレポート2010」をもとに、意見交換会を実施しました。

参加者

福井県立大学経済学部／中沢教授ゼミの学生
北陸電力／経営企画部CSR推進チーム、環境部環境管理チーム

参加者のご意見・感想

- ・低炭素社会の実現に向けて、需給両面から電力の効率化を推進している。なにげなく利用していた電気を大切にしようという意識が生まれた。
- ・「出前講座」を私も受けてみたい。未来を担う子供たちが、エネルギー問題を理解することは重要だと思う。



意見交換会

北陸電力グループCSRレポート2011 社会・環境活動報告に対する意見



富山国際大学
尾畑 納子 教授

- 富山県出身
- 奈良女子大学家政学部、金沢大学大学院自然科学研究科修了(学術博士)
- 富山国際大学現代社会学部教授(環境デザイン専攻)
- 著書等：「改訂21世紀のテキスタイル科学」、「家政学事典」(分担執筆)など
- 日本繊維製品消費科学会評議員、富山県消費者協会副会長、富山県・富山市環境審議会委員、富山市教育委員 など

2005年から発行されている北陸電力グループのCSRレポートは、年度を重ねるごとに内容が整理され、読者にとってわかりやすいものとなってきた。冒頭の社長メッセージでは、創立60周年を迎え、信頼される企業として「北陸地域との共存・共栄を目指す」と宣言されており、読み手にはCSRの根幹となる企業方針を理解することに役立つであろう。

3月11日の未曾有の東日本大震災では多くの方々が被災された。お見舞い申し上げるとともに、一日も早く通常の生活にもどられるよう心からお祈り申し上げます。特に福島第一原子力発電所の事故では、国策として進められてきたエネルギー政策や電力各社の経営方針にも大きく影響を与える事態となっており、北陸電力においても地震や津波などの自然災害への安全対策が急を要する課題となった。

こうした点から、「特集1」では今回の福島原発の事故を踏まえた「安全強化策」に関する項目が盛り込まれた。読者にとって最も関心の高い原子力発電所の安全対策に関して、図や写真を活用し、既に実施済みの「安全対策」と時間が必要な「更なる対策」に分けて説明がなされ、一般の人が見ても比較的理解しやすい工夫がなされている。また被災地域への専門的な復旧支援など、マスコミではそれほど大きく取り扱われていない情報も盛り込まれていた。

「特集2」の低炭素社会実現に向けた取組みの紹介では、今後のエネルギー予測や環境目標値に基づいて、様々な再生可能エネルギー利用への取組みがわかりやすく紹介されている。特にLNGによるコンバインドサイクル発電の導入に大いに期待したい。一方、冒頭でグループ一体として取り組むと記載されているので、グループ企業間としての取組みが簡単に紹介されていればより明快なものとなったと思う。

CSRの第1の柱「経営編」では、行動指針とそれに伴う行動計画が明記され、その推進体制や経営状況がグラフや図式などを用いて整理されており、適度に写真も入って見やすくなっている。第2の「社会編」では各グループでの事業内容や地域社会との関わりについて詳細に取り上げ、単なる紹介ではなく従業員や地域の方々の想いが「VOICE」というインタビュー形式で示されている点は親しみやすく好感が持てる。

第3の「環境編」ではかつての環境報告書を継承してかなりのページが割かれ、環境への取組みに力を入れていることがよくわかる。生活者の省エネ提案もわかりやすく、今年は特に役立ちそうだ。一つ一つの取組みが丁寧に紹介される中で、北陸電力としての京都メカニズムのCO₂クレジット活用とCO₂削減について触れている部分では、内容が複雑であり、もう少し分かりやすい解説が加われば読者にも一層の理解が深まったのではないと思う。

いずれにしろ、「地球環境問題」と「エネルギーの安全・安定的な確保」という待ったなしの大きな課題を抱える現代社会において、現状に常に関心を持ち正しく理解することが重要であり、ステークホルダーにとってこのレポートが良き手引書となることを大いに期待したい。